

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：平成31年3月15日

事業所名 デイサービスセンターあおば 保護者等数(児童数) 6 回収数 5 割合 83.3%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	0%	40%	40%	20%	・移転後は前と比べて十分なスペースが確保されていないと思う。 ・移転後の活動内容に不安がある。	・移転後、公園外出・外食等は以前と同様のものは難しいため、できるだけ形を変えて実施する方向で検討する。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	20%	40%	20%	20%	・職員の入れ替わりの多さを目の当たりにし、専門性の担保に疑問がある。 ・発達障害の支援に関しては、専門性は高いと感じている。	・配置数に関しては、国の基準は満たしている。 ・研修等によりカバーする。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	60%	40%	0%	0%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	80%	0%	0%	20%		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	60%	20%	0%	20%	・以前は情報提供していただいていたシートがなくなった。やはり紙ベースで欲しいと感じた。	・児童発達支援の個別支援計画については、日程調整をし、計画を渡して個別に説明する時間を設けている。その中でわからないことがあれば、再度説明し、支援の詳細は日々の連絡ノートで伝える。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	60%	20%	0%	20%		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	80%	0%	0%	20%		
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	20%	20%	0%	40%	・未回答1 ・以前はもっと様々なプログラムがあり、どんどん階段を上がっていたように思う。	・新しい個別支援計画に基づいた内容のものを実施していることを説明する。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0%	20%	60%	20%	・親が自ら場面設定すれば交流の機会はあるが、現状あおばとしてはないのではないか。	・地域と交流する機会(行事)を企画・検討している。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	80%	0%	0%	20%		

保護者への説明等	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	60%	20%	0%	20%	・改正された支援計画書だけでは細かい内容までわかりづらい。	・個別支援計画については、ガイドライン内容を示しながら、支援内容の説明を丁寧に説明する。
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	20%	0%	20%	60%		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%	・課題については、実際に使っているものを見せてもらえるとうわかりやすい。 ・忙しい中、毎日連絡ノートを書いてくださり、活動の様子が分かって良い。	・毎日ではないが、新しく実施した課題は、現物を見てもらう。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	80%	20%	0%	0%		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	60%	20%	0%	20%		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	20%	60%	0%	20%	・保育所等訪問をお願いしているが、先生もお忙しく、迅速に行って頂けている現状ではない。先生の多忙さを感じるので、まずは先生の状況を改善しなければ、この問題の解決に繋がらないように思う。	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	80%	0%	0%	20%		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	20%	20%	20%	40%	・行事連絡が遅く、準備に余裕のないことがあった。 ・以前はデイあおばのみの広報のようなことも達の様子に分かるものを頂いていた。	・連絡用メールアドレスを開設し、情報を発信する。 ・当事業所のみでの発行ではなく、3事業所での発行にまとめた。 ・ブログを更新する。 ・個人情報に配慮した対応をしている。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	100%	0%	0%	0%		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	60%	20%	0%	20%	・訓練は行われているが、マニュアルの周知はされていないのでは？	・マニュアルを建物内に掲示する。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	80%	0%	0%	20%		
	22	子どもは通所を楽しみにしているか	60%	20%	0%	20%		

満足度	23	事業所の支援に満足しているか	20%	40%	40%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり全体的に“わからない”と感じることが多くなり、十分に支援頂いているのかもしれないが、満足できていないのが本音。 ・支援内容には満足しているが、連絡事項等をもう少し早めに知らせてもらえると助かる。 ・先生方の温かいご支援のおかげで、子どもが成長していると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項の徹底に努める。 ・情報発信機会を設ける。
-----	----	----------------	-----	-----	-----	----	--	---

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶことで、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年3月15日

事業所名 デイサービスセンターあおば

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	83%	0%	・配置数は適切。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83%	17%		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	67%	33%	・マニュアルや会議等でPDCAサイクルが必要なことは周知している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%		・29年度は児発はなかったため、行っていない。30年度は実施中。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	・児発に関しては、30年度実施予定。	・30年度実施した結果をHPや会報で公表する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・研修機会には恵まれている。	・新採用職員は事業所内での研修があってもよい。 →新採用職員に、事業所内研修を実施する。 ・研修の復命機会を設定している。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	83%	17%		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%	・担当者が立案し、児発管に相談し、助言を受けて修正したものを全体で共有している。	・終了した後は、気付きや振り返りを共有し、次の立案に活かす。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%			

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%		・朝のミーティング等で確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%	・新人職員が慣れるまでの期間は毎日実施。その他は適宜実施。 ・休憩中に、支援についての確認やケースについての共有をすることはある。 ・必要に応じて、多機能で児童発達支援が終わっても、放課後等デイ利用児が来るため、その日のうちに必ず振り返りができるとは限らない。翌日になることもある。	・朝のミーティング等で職員間の情報共有を図る。 (朝以外に、営業時間内で振り返りを行う時間を設定する。)
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	・記録はされている。	・徹底はできていなかったため、様式・記入の仕方等を変更した。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	83%	17%		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	17%	33%		・医療ケア児の利用なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	50%		・医療ケア児の利用なし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	83%	17%	・必要なお子さんにはしている。 ・今までは、関係機関連携として行っていた。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・必要なお子さんにはしている。 ・今までは、関係機関連携として行っていた。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	17%	・発達障害者支援センター主催の研修情報等回覧されており、本人の希望があれば参加できる。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		・事業所としての交流機会や活動機会はない。 →地域の交流(行事)を企画・実施する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33%	50%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・日々の連絡ノートや申し送り時で報告。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	17%	67%		・ペアレント・トレーニングのお知らせは配布している。 ・ペアレント・トレーニングは行っていないが、対応等の相談にはできる限り家で取り組みやすい方法の提案を行う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	17%		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	・都度質問には、利用児の推測される(事業所内での見立てで)特性について丁寧に説明し、個別支援計画に至る部分をわかりやすく伝える努力はしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%		・保護者を労い、一緒に考えたり、提案したりする。定期的ではないが、要望があれば、相談は別時間を設定して対応している。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	0%	・保護者懇談会を実施した。 ・保護者自身が企画した保護者の茶話会については情報提供している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	17%	・会報（広報）で行事予定は発信していない。 ・ライフサポートあおばとしてだが、広報で活動の様子を伝えたり、ブログで情報を発信したりしている。	・行事予定等の案内が遅くなっているため、一斉に保護者へ連絡できるように、連絡用メールアドレスを開設した。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	67%	・平成30年度は未実施。 ・招待はない。ボランティアや実習生を受け入れる体制がある。 30年度は移転もあり、地域交流会は中止となった。	・地域と交流する機会を設定する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%		・訓練はしているが、マニュアルについて保護者へは周知していないため、マニュアルは建物内に掲示する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・毎月避難訓練実施。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	50%	50%		・保護者に口頭で確認していた。保護者に協力してもらい、更新したものをデータ化して確認できるようにする。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17%	67%	・保護者には、おやつ作り・豆まき等の行事前に都度確認している。	・食物アレルギーがある児童の場合には、医師の指示書等の写しを持参してもらい、対応する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	50%	50%	・事例集はないが、アクシデントレポートを回覧している。	・会議等で、ヒヤリハットに当たるものの確認、報告・注意喚起する機会を強化する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	83%	17%	・該当ないが、マニュアルには記載されている。 ・身体拘束を行うような児童の利用はない。そのため、個別支援計画に記載していない。	・該当がなく、計画には記載していない。 →該当者がいる場合には、個別支援計画に記載する。

